

令和元年度第2回北名古屋市行政改革推進委員会 会議録

○ 会議概要

1 あいさつ

能村総務部長あいさつ



2 議題

- (1) まち・ひと・しごと創生基本方針 2019 について
- (2) 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）について
- (3) 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策及びK P I 等の変更点（案）について

<事務局>

【資料1 まち・ひと・しごと創生基本方針 2019 の説明】

【資料2 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）の説明】

【資料3 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の変更点（案）【施策】の説明】

【資料4 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の変更点（案）【K P I 等】の説明】

<会長>

事務局からまち・ひと・しごと創生基本方針 2019 と第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の骨子案、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策と KPI のそれぞれの変更点について、説明を受けた。

これらについて、委員の皆さんのご意見やご質問を伺いたい。

<委員>

不妊治療の支援という話があったが、北名古屋市では現在、支援がないのか。

<事務局>

現在、市での補助はある。国の支援は高度な不妊治療に対するもので、市の支援は一般的な不妊治療に対するもの。治療費の2分の1を年に5万円を限度に補助している。年に約120件ほどの申請がある。不妊治療に対する支援については、市町によって金額や回数に裁量があるため、取組として出すことにした。

<委員>

小牧市の職員を見ると、看護師や保育士で、不妊治療を理由とした休暇が取りにくい環境ということを聞く。それによって職場を離れることも多いので、金銭面だけの支援

ではなく、不妊治療が認められる環境づくりも必要と考える。

<委員>

U I J 支援の話があったが、これはインパクトが強い。しかし、予算の関係もあるため、より幅広く人口を増やす支援の方が良いと考える。例えば、借入をして創業する人への支援に重点を置くことは、予算措置はそんなに大きくなくできる。インパクトは少ないが、移住・定住の動機づけには良いと思う。

また、「安全で安心して暮らすことができるまち」というテーマがあるが、滋賀県大津市で起きたブレーキ踏み間違いによる保育園児死亡事件の後の滋賀県の対応のように、お金はかかるがハード面での安全・安心も必要だと思う。

<委員>

SDG s について、「基本的な考え方」では示されているが、総合戦略の中に具体的に入れるべき。SDG s を推進していることは、企業や市民に良いイメージなので、できればK P I においても入れると良い。

<事務局>

具体的に落とし込めるよう、書き下しに配慮して取り入れたい。

<委員>

SDG s の 17 項目は、個別で存在するのではなく、すべての項目が関連しており、そのバランスで世界を変えようというもの。17 項目それぞれがどこの施策に関連しているか分かりやすく表記すると良い。

<会長>

塩尻市のまち・ひと・しごと創生総合戦略には、SDG s との関連性を示した一覧表がある。これがあるとインパクトがあり、良い。

<委員>

「子どもを虐待から守るまち宣言」が議会で採択されたとのことだったが、北名古屋市では実際にいじめはどれくらいあるのか、貧困率はどれくらいかなど、数字で表すと良い。北名古屋市に移住・定住してほしいと言っても、就職できなければ来られない。東京は生涯賃金が高いから集中する。北名古屋市の豊かさの指標があると良い。起業の支援や家を建てる人の支援など、将来性のある支援が欲しい。日本は男性の育児休業取得率が世界第1位だが、復帰すると元の仕事に戻れないということがあるよう。北名古屋市は男性の育児休業取得ができる環境であるとか、父親が単身赴任した時に残された子どもの子育てを支援するとか、そういった面白い施策で引き込むと良いと思う。

<委員>

中学生への思春期教室の話があった。北名古屋市では、小学校までは多くの支援や事業がある。しかし、思春期の中学生・高校生への事業が薄いと感じる。児童館においても、小学校との連携はあっても、中学校とのかかわりは薄い。若い世代の結婚・出産・子育てという将来を考えれば、思春期の子どもに対する事業をもっと手厚くするべきと思う。

<会長>

中学校で将来、地域を支える人材を作るべき。そのためには、地域コミュニティで行っていくことになると思うが、現在は幼・保・小の連携は取れているので、中学まで連携するという目標を立てると良い。中学生に関する施策も少なく、副読本の配布では地域を支える人材を育てられるとは思えない。

<委員>

北名古屋市は子育てしやすい市であるのに、発信が少なく、シティプロモーションの展開が必要であると思う。先日の日経新聞や中部新聞に掲載されていたが、住みやすいまちとして岩倉市の順位が上がっていた。北名古屋市は、自然増・社会増を維持しているので、転出の防止よりも呼び込みに重点を置いた方が良いと思う。予算のこともあるが、シティプロモーションに力を入れ、もっと北名古屋市の良さを発信するべき。若い職員でプロジェクトチームを作って、知恵と若いアイデアでコストかけずにやっても良い。

<委員>

施策のところに空き家の「活用」とあるが、活用が難しい現状を見ると、「対策」の方が良いのではと思う。安城市で先日、県内初めての行政代執行が行われたが、北名古屋市内でも候補となる空き家はある。8月から空き家の相談窓口を設置するので、市に受け皿ができる。空き家の施策を残すのであれば、K P I に相談件数を入れる等が良い。

4 その他

<事務局>

第3回の委員会の日程については、8月20日（火）の午前10時から302会議室にて開催させていただく。

<会長>

これにて委員会を閉会とする。

【閉会】

配布資料	資料 1 まち・ひと・しごと創生基本方針 2019 について 資料 2 第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）について 資料 3 第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略の変更点（案）について 【施策】 資料 4 第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略の変更点（案）について 【K P I 等】
------	---